

2021年2月25日
第132号
(Web版第26号)

日本犯罪社会学会ニュース

発行

日本犯罪社会学会
JAPANESE ASSOCIATION OF
SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY

- I 新会長挨拶
 - II 第17期理事会・学会事務局の体制について
 - III 第48回(2021年度)大会「テーマセッション」企画の募集について
 - IV 第48回(2021年度)大会 自由報告募集
 - V 2021年度院生会員会費の取り扱いについて
 - VI 「第20回日本犯罪社会学会奨励賞」対象研究業績の応募について
 - VII 選挙管理委員会報告
 - VIII 第47回大会開催報告
 - IX 理事会開催報告
 - X 第47回総会開催報告
 - XI 追悼 荒木伸怡先生
 - XII 追悼 西村春夫先生
 - XIII 追悼 澤登俊雄先生
 - XIV アジア犯罪学会第12回大会の開催について
 - XV 各部・委員会報告
- 付 会計資料

※第107号からニューズレターはWebのみで発行しております。

※会員動向につきましては、年間1回、会員のみに詳細版を郵送いたします。

I 新会長挨拶

日本犯罪社会学会
第17期会長 浜井浩一



石塚前会長の後を受けて第17期の日本犯罪社会学会の会長に就任しました。どうぞよろしくお願ひします。

さて、本学会の英語表記は、**Criminological Sociology**ではなく、**Sociological Criminology**となっています。これは、本学会が日本における犯罪学(Criminology)の受け皿としての役割を担うのだという先人の意思を表しているのだと思います。犯罪学の特徴はその学際性にあります。社会学だけでなく、心理学、医学や法学など社会や人の行動を扱う様々な学問領域の方法論を用いて犯罪現象を解明しようとするのが犯罪学です。

Criminologyを名乗る本学会の特徴の一つも、その学際性にあります。その学際性は学問領域だけにとどまらず、研究者と実務家が交流する場としての多様性も含んだものとなっています。

私が、所属する様々な学会の中で本学会を母学会と考え活動してきたのも、このような本学会の特徴があったからです。それは、私自身の経歴とも深く関係しています。私はもともと心理職として法務省に採用され、矯正・保護すべての実務を経験し、アメリカやイタリアで犯罪学を研究し、法科大学院で12年間教鞭をとってきました。私の研究者としての最大の特徴は、その学際性に加えて、政策立案を含めて犯罪者処遇の実務を知っていること、実務を通して多くの人たちと出会ってきたこと、そして、犯罪白書の編集を担当するなどマクロレベルでの日本の犯罪や刑罰を分析した経験があり、さらに国連に勤務したことで日本の犯罪や刑罰を国際的な視点から見た経験を持っていることにあります。

私の会長としての抱負は、本学会の持つ学際性と多様性の伝統をさらに発展させることで、犯罪学の持つ可能性を追求していくことだと考えています。石塚前会長も指摘したように、本学会は現実の犯罪現象をめぐる様々な分野の研究者や実務家が自由闊達な議論する「場」として発展してきた経緯があり、だからこそ実務に還元できる成果を上げてきたのだと思います。理想をひたすら追求する研究者と現実が持つ様々な制約の中で妥協を繰り返しながら最善の選択をしなければならぬ実務家とでは立場が違います。しかし、理想を持たない実務からは何も生まれません。同時に、実務(現実)を軽視した犯罪学が真理にたどり着くことはないと思います。

全国理事会や総会での会長就任あいさつでは、「世代交代」と「感謝と恩返し」という二つのキーワードを挙げさせてもらいました。研究者としての私を育ててくれたのは日本犯罪社会学会です。その恩に報いるためにも、3年間、研究と実務、そして世代間の架け橋となることで本学会が更に発展できるように微力を尽くしてまいりたいと思います。

II 第17期理事会・学会事務局の体制について

1. 理事会において互選された常任理事および担当は下記の通りです。(敬称略・50音順)

会長：浜井浩一

(副会長)：谷岡一郎

本部事務局庶務部：田中智仁(部長)、相澤育郎

本部事務局会計部：山本功(部長)、相良翔

研究委員会：岡邊健(委員長)、上田光明、津島昌寛、森久智江、水藤昌彦

編集委員会：武内謙治（委員長）、原田豊
企画調整委員会：津富宏（委員長）、丸山泰弘
渉外広報委員会：平山真理（委員長）、笹倉香奈、山口直也

なお、常任以外の理事は下記の通りです。（）内は担当です。

四方光（関東幹事会）、城下裕二、染田恵（編集委員会）、正木祐史、松原英世（関西幹事会）、松宮孝明、宮園久栄、渡邊一弘（関東幹事会）、王雲海

2. 下記の会員が浜井浩一会長より委員に委嘱されました。（）内は担当です。

太田宗志（本部事務局庶務部）、暮井真絵子（本部事務局庶務部）、赤羽由起夫（本部事務局会計部）、岡村逸郎（本部事務局会計部）、大谷彬矩（研究委員会）、大塚英理子（研究委員会）、櫻井悟史（研究委員会）、竹中祐二（研究委員会）、橋場典子（研究委員会）、松川杏寧（研究委員会）、山口裕貴（研究委員会）、秋本光陽（編集委員会）、石田侑矢（編集委員会）、今井聖（編集委員会）、我藤諭（編集委員会）、作田誠一郎（編集委員会）、竹原幸太（編集委員会）、都島梨紗（編集委員会）、山根由子（編集委員会）、掛川直之（企画調整委員会）、山梨光貴（企画調整委員会）、吉田緑（企画調整委員会）、小関慶太（渉外広報委員会）、デイビット・ブルースター（渉外広報委員会）

3. 下記の会員が浜井浩一会長より編集委員に委嘱されました。

<編集委員会委員>

武内謙治（編集委員長）、原田豊、平山真理、四方光、渡邊一弘、相澤育郎、秋本光陽、今井聖、竹原幸太、山根由子、森久智江、水藤昌彦、津島昌寛、松原英世、石田侑矢、我藤諭、作田誠一郎、都島梨紗、津富宏、仲野由佳理、宝月誠、山口直也、宮澤節生、坂口祐介、岡田和也、櫻井悟史、柴田守、新海浩之、染田恵、齊藤知範、朝田佳尚、丸山泰弘、山本奈生、辰野文理、本庄武、山口毅、鈴木政広、笹倉香奈

<関東幹事会>

武内謙治（編集委員長）、平山真理、四方光、渡邊一弘、相澤育郎、秋本光陽、今井聖、竹原幸太、山根由子

<関西幹事会>

武内謙治（編集委員長）、森久智江、水藤昌彦、津島昌寛、松原英世、石田侑矢、我藤諭、作田誠一郎、都島梨紗

Ⅲ 第48回（2021年度）大会「テーマセッション」企画の募集について

第48回大会は2021年10月16日（土）、17日（日）に龍谷大学深草キャンパス（京都府京都市伏見区）で開催されます。研究委員会では、テーマセッションの企画を会員の皆さまより募集します。犯罪社会学あるいは関連する周辺諸分野について現在関心をお持ちのテーマがありましたら、奮ってご応募ください。

なお、現時点では、テーマセッションの開催される日と時間帯は未定です。また、第 36 回大会より、それまでのミニシンポジウムとラウンドテーブル・ディスカッションの区分を廃し、統一して「テーマセッション」として開催しております。

●申込方法：Google フォームにて、以下の項目をお知らせください。

メールアドレス
申込者氏名（所属）
企画テーマ
セッション形式：ラウンドテーブル・ディスカッション or ミニシンポジウム
プロジェクトの可否
※大学に所属のある場合、教員等は「〇〇大学」、大学院生は「〇〇大学大学院」と記載してください。

●申込先 URL

<https://bit.ly/39GN4sP>



※研究委員会や学会事務局へのメールでのお申込みは、ご遠慮ください。

●申込期限：2021年3月20日（土）必着

●問い合わせ先：日本犯罪社会学会研究委員会（担当委員：大塚 英理子）

電子メールアドレス：hansha2021kenkyu@gmail.com

●連絡事項：

*現時点で大会はインパーソンでの開催を予定しています。ただし新型コロナウイルスの状況によっては、一部または全部をオンラインに切り替える可能性があります。キャンセルはできませんので、オンラインに切り替わる可能性があることを理解したうえで、お申込みください。

*各テーマセッションの時間として180分を確保します。

*形式は、ラウンドテーブル・ディスカッション、ミニシンポジウムのどちらでも結構です。申込みの際、希望の形式をお知らせください。

*報告者・話題提供者等は、申込みの段階では未定でも構いません。

*プロジェクトの使用を希望される場合は、その旨を申込みの際にお知らせください。なお、大会当日に報告者ご自身でご持参いただく機材（PC、USBメモリ等）については、使用会場の設備が決定次第、研究委員会からご連絡します。

*申込が受理されると自動的にメールが届きます。メールが届かない場合は、メールアドレスが誤っている可能性がありますので、再度お申込みください。それでも届かない場合は、Eメールでお問合せください。メールは第48回大会窓口 [hansha2021kenkyu@gmail.com] と学会事務局 [hansha@daishodai.ac.jp] の両方に送信してください。

*プログラム構成上の制約により大会期間中に開催できるテーマセッションの数には限りがあるため、応募が多数であった場合は調整させていただくことがあります。応募が受理できない場合は、研究委員会より4月末までにその旨をご連絡します。

- *企画が採択された場合、2021年6月1日（火）までにプログラム原稿、大会終了後2週間以内に大会要旨集原稿をご提出いただきます。詳細は後日、研究委員会よりご案内します。
- *複数の企画に登壇する報告者・話題提供者がいる場合、開催時間が重複しないように調整は行うものの、対応できない場合もあることをご了承ください。
- *テーマセッション開催日時指定はできません。ご了承ください。

IV 第48回（2021年度）大会 自由報告募集

研究委員会では、会員の皆様の自由報告を募集します。

- 申込方法：Google フォームにて、以下の項目をお知らせください。

メールアドレス 申込者氏名（所属） 共同研究者氏名（所属） 上記それぞれについて当日報告をするか否か 報告タイトル プロジェクトの要否： 大会プログラムに掲載する報告概要原稿（150字以上200字以内） ※大学に所属のある場合、教員等は「〇〇大学」、大学院生は「〇〇大学大学院」と記載してください。
--

- 申込先 URL

<https://bit.ly/3oLhGj7>



※学会事務局など、上記以外へのお申込みは、ご遠慮ください。

- 申込期限：2021年6月1日（火）必着
- 問い合わせ先：日本犯罪社会学会研究委員会（担当委員：大塚 英理子）
電子メールアドレス：hansha2021kenkyu@gmail.com

- 連絡事項：

- *現時点で大会はインパーソンでの開催を予定しています。ただし新型コロナウイルスの状況によっては、一部または全部をオンラインに切り替える可能性があります。キャンセルはできませんので、オンラインに切り替わる可能性があることを理解したうえで、お申込みください。
- *自由報告は1名でもグループでも申し込めます。
- *申込者と報告者は会員に限ります。共同研究者は非会員でも構いませんが、当日の報告はできません。
- *1件の申込みにつき1つの報告となります。

- * 会員 1 名につき、申込み及び報告は 1 件までとなります。ただし、他の報告者の共同研究者となることは妨げません。
- * 報告時間は 1 件 30 分以内（報告時間：20 分程度、質疑応答：10 分程度）となります。共同研究者がいる場合でも、報告時間は変わりませんのでご注意ください。
- * 申込みの時点で大会プログラムに掲載する報告概要の原稿（150 字以上 200 字以内）をお送りください。原稿は、原則として修正できません。
- * 大会プログラムに掲載された報告概要の著作権は、日本犯罪社会学会に帰属します。
- * プロジェクタの使用を希望される場合は、その旨を申込みの際にお知らせください。なお、大会当日に報告者ご自身でご持参いただく機材（PC、USB メモリ等）については、使用会場の設備が決定次第、研究委員会からご連絡します。
- * 申込が受理されると自動的にメールが届きます。メールが届かない場合は、メールアドレスが誤っている可能性がありますので、再度お申込みください。それでも届かない場合は、E メールでお問合せください。メールは第 48 回大会窓口 [hansha2021kenkyu@gmail.com] と学会事務局 [hansha@daishodai.ac.jp] の両方に送信してください。
- * 自由報告実施の日時や会場の指定はできません。ご了承ください。
- 自由報告でお守りいただきたいこと：
 - * 自由報告会場には、セッション開始の 20 分前までに必ずお入りください。遅刻・欠席等の場合は、必ず上記メールアドレス宛にご連絡ください。
 - * セッションの時間中に自由報告会場から離れることは、原則としてできません。無断で離れた場合には「報告が成立した」と認めない場合があります。
 - * 自由報告時にプロジェクタをご使用になられる場合、必ずセッション開始時刻前に、動作確認をお願いします。
 - * 自由報告者の方には、大会前日までに、メールで大会要旨集原稿をご提出いただきます。詳細は後日、研究委員会よりメールにてご案内しますので、メールを必ずご確認ください。

V 2021 年度院生会員会費の取り扱いについて

日本犯罪社会学会 2021 年度院生会員会費免除のお知らせ

会計部

日本犯罪社会学会会則において、院生会員（大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない者）の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによると定められています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、大学院生が経済状態の悪化によって研究継続が困難になる可能性を考慮し、日本犯罪社会学会第 17 期理事会は院生会員に対し、**2021 年度**の学会費を免除することを決定しました。

該当する会員で、免除の適用を申請される方は、以下の URL にアクセスし、フォームからご連絡をくださるようお願いいたします。

連絡先 URL : <https://forms.gle/8nWRmk1Mj4X8XJV38>

(学会 web サイトにリンクがありますので、そちらからのアクセスが便利です)

当該年度学会費未納の方には機関誌の発送をいたしません。今秋の機関誌発送業務のために、免除であるのか未納であるのかを判別する必要があります。この点に鑑みまして、免除を希望される会員は以下の期日までに申請してください。

2021年度院生会員会費免除申請期限：2021年9月20日（月）

・学会事務局では、当該年度において院生会員に該当するか否かを確認することができません。そのため、ご連絡がなければ、未納であるか免除対象であるかを判別することができません。翌年度以降の会費請求で二重請求してしまうこととなります。

VI 「第20回日本犯罪社会学会奨励賞」対象研究業績の応募について

日本犯罪社会学会では、犯罪、非行、刑事司法、及び、それらに関連する諸事象に関する社会科学的研究の活性化と発展のため、そして、知的資産の不断の蓄積および学術内容の更なる質的向上のため（特に若手研究者への刺激と登龍門として）、「日本犯罪社会学会奨励賞」を創設し、受賞研究業績を選考し表彰しております。

2021年度は、論文が選考対象となる年です。2019年4月から2021年3月までに公表された、原則として満35歳以下の会員（受賞時点で会員であること）による論文の自薦・他薦を募集いたします。ノミネートの期限は2021年3月31日（消印有効）です。詳細は学会ホームページの「奨励賞規約」（<http://hansha.daishodai.ac.jp/promotion/index.html>）をご覧ください。

自薦・他薦いただく際には、以下の情報を記した書面とともに、選考対象論文を5部、学会事務局宛にご送付いただくようお願いいたします。封筒に「奨励賞応募論文在中」とご明記ください。なお、応募された論文5部は返却いたしません。

- 1) 選考対象の著者名（フリガナ）、連絡先住所、電話番号、メールアドレス
- 2) 選考対象者の生年月日
- 3) 選考対象論文名、掲載誌名、出版年月日
- 4) 他薦の際には、推薦者の連絡先住所、電話番号、メールアドレス

日本犯罪社会学会 事務局

〒577-0036 東大阪市御厨栄町 3-1-35 学術センター U-Box 2F

VII 選挙管理委員会報告

2020年度理事選挙の経過及び結果は、以下の通りです。

<経過>

- ・第16期第8回常任理事会にて本年度選挙管理委員候補者が決定され、以下6名に委嘱された。相澤育郎、葛野尋之、染田恵、新倉修、丸山泰弘、宮園久栄（五十音順、敬称略）
- ・新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、第1回委員会をメール審議とし、委員長を新倉修に決定。メール審議は2020年4月1日から4月27日の期間実施した。
- ・6月10日現在で選挙権者名簿を確定。

選挙権者：434名

東日本区：254名（58.5%）⇒15名選出

西日本区：180名（41.5%）⇒10名選出

- ・6月27日付で、選挙権者に投票用紙等を発送。
- ・7月1日付で「理事選挙人名簿の訂正について」を発送。
- ・7月31日消印有効で投票締切。

投票者数：130名（投票率：29.9%）

- ・8月8日開票。

<開票結果>

- ・投票総数：130名×10票＝1300票（再投票1名含む）
- ・有効投票：129名×10票＝1290票（無効投票1名）

有効票：1126票

白票：107票

無効票：57票（当初の名簿に誤記載のあった2名への投票含む）

<第17期理事就任者>（選挙区別、五十音順、敬称略）

- ・東日本区（15名）

相澤育郎、相良翔、四方光、城下裕二、染田恵、田中智仁、津富宏、原田豊、平山真理、正木祐史、丸山泰弘、宮園久栄、山本功、渡邊一弘、王雲海

- ・西日本区（10名）

岡邊健、笹倉香奈、武内謙治、津島昌寛、浜井浩一、松原英世、松宮孝明、水藤昌彦、森久智江、山口直也

VIII 第47回大会開催報告

日本犯罪社会学会第47回大会が、2020年10月3日（土）、4日（日）の2日間にわたり、オンラインで開催されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、初めてのオンラインでの開催となりましたが、今回も成功のうちに大会を終えることができました。これも大会本部を設置した龍谷大学の関係者の皆様によるご尽力をはじめ、会員の皆様のご協力のたまものです。ありがとうございました。

『日本犯罪社会学会第47回大会報告要旨集』は、学会ウェブサイトに3月上旬にアップロードされる予定です。大会の内容につきましては、そちらの要旨集をご覧ください。

IX 理事会開催報告

2020年9月25日（金）の17:00から、Zoomを使用したオンライン会場にて、第16期第5回全国理事会が開かれ、総会に発議・報告する事案についての検討が行われました。

開会時点において、出席理事数19名、委任状提出理事2名の計21名であり、定足数を満たしていることが確認されました。

1. 審議事項は以下のとおりでした。

(1) 2019年度一般会計決算案、2019年度特別会計決算案について山本会計理事より提議され、承認されました。(2) 2019年度一般会計監査について松宮監事より会計事務が適正に執行されているとの監査結果が報告され、承認されました。(3) 2020年度一般会計補正予算案・2021年度一般会計予算案、2021年度特別会計予算案について山本会計理事より提議され、承認されました。なお、名誉会員の推挙、新入会員の入会承認に関する提起はありませんでした。

2. 報告事項は以下のとおりでした。

(1) 選挙管理委員会監査報告では新倉選挙管理委員長より、第16期理事選挙の経過および結果が報告されました。(2) 奨励賞の選考結果について武内奨励賞選考委員長より、本年度の奨励賞選考過程について説明があり、「相良翔 2019『薬物依存からの「回復」ーダルクにおけるフィールドワークを通じた社会学的研究』ちとせプレス」を受賞作としたことが報告されました。(3) 第46回大会会計報告について2019年10月に行われた第46回大会実行委員長の野田会員より会計報告がなされました。(4) 各部・委員会報告では、各部・委員会から1年間の活動について報告しました。

最後に、石塚会長から、第48回大会の開催方法及び大会校については、今般の新型コロナウイルス感染症の情勢にかんがみ現時点での決定が困難であると判断し、次期理事会に申し送ることが説明されました。また、石塚会長より、2020年10月3日にオンライン開催する総会の議長を、第16期の委員（研究委員を除く）から事前に出すことについて説明されました。

X 第47回総会開催報告

2020年10月3日（土）にZoomを使用したオンライン会場にて、17時15分から第47回総会が開かれました。本部事務局庶務部が開会を宣言し、総会議長に上田光明会員と松川杏寧会員が選出され、審議案件と報告事項は総会議長によって議事進行が行われました。

1. 審議事項は以下のとおりでした。

(1) 2019年度一般会計決算案、2019年度特別会計決算案について山本会計理事より提議され、承認されました。(2) 2019年度一般会計監査について前田監事の代理で石塚会長より会計事務が適正に執行されているとの監査結果が報告され、承認されました。(3) 2020年度一般会計補正予算案・2021年度一般会計予算案、2021年度特別会計予算案について山本会計理事より提議され、承認されました。(4) その他として、石塚会長より、日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する声明を発出することが提起され、審議の結果、「会長声明」とすることで承認されました。

2. 報告事項は以下のとおりでした。

(1) 第17期理事選挙結果について、新倉選挙管理委員長の代理で石塚会長より理事選挙の経過および結果が報告されました。(2) 学会奨励賞選考結果について、武内奨励賞選考委員長より審査結果が報告され、相良翔 2019『薬物依存からの「回復」ーダルクにおけるフィールドワークを通じた社会学的研究』ちとせプレス」を受賞作としたことが報告されました。(3) 第46回大会会計報告について2019年10月に行われた第46回大会実行委員長の野田会員より会計報告がなされました。(4) 各部・委員会報告では、各部・委員会から1年間の活動について報告がありました。

次に、石塚会長より、2020年10月2日（金）に開催された第17期第1回全国理事会で、第17期会長を浜井浩一会員に決定したことが報告され、承認されました。浜井新会長から挨拶がありました。続いて、監事を佐々木光明会員と本庄武会員に決定したことが浜井新会長から報告され、承認されました。

最後に、第48回大会の開催方法及び大会校については、今般の新型コロナウイルス感染症の情勢にかんがみ現時点での決定が困難であると判断し、第17期理事会に申し送ることが説明されました。

以上の議事を終え、本部事務局庶務部が閉会を宣言しました。

XI 追悼 荒木伸怡先生

2020年2月27日、本学会元会長の荒木伸怡先生先生が、75歳でご逝去されました。ここに深く哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

荒木先生は、1968年に中央大学法学部を卒業後、1975年に東京大学大学院民刑事法専攻博士課程を修了され、「迅速な裁判を受ける権利」(1993年に成文堂より刊行)で博士号を取得されました。1974年に立教大学法学部へ助手として迎えられて以降、同法学部教授として2010年に定年を迎えられるまで同校の教壇に立たれました。立教大学定年後は、「経費を差し引くと弁護士会費にもならない」とぼやきつつ弁護士として活躍され、その著作中で屢々記された「誤判・冤罪を生まないうために」を実践に移されておられました。

荒木先生の多大なる業績の中で特筆すべきは、解釈論に終始しない「社会科学としての法学」という方法論の確立ではないでしょうか。パソコンが普及する以前、研究室に置かれたコンピュータはホストコンピュータの「端末」に過ぎなかった頃から、コンピュータを利用した統計的手法により交通犯罪等の研究を行っておられました。その集大成の一つが、『裁判—その機能的考察—』(学陽書房、1988年)と言えましょう。荒木先生はこの研究方法論をもって、学際学会である本学会の活動・発展に大きく寄与され、1984年以降本学会の理事を務められ、1999～2002年には本学会会長の職に就かれました。また、法と心理学会(常任理事)、日本司法福祉学会、日本犯罪被害者学会、日本法社会学会等にも所属され、幅広い研究をされておられました。

荒木先生は、後進の育成にも力を注がれました。現理事の諸先生中にも、「若手」であったころ、先生の薫陶を受けられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。上記『裁判—その機能的考察—』の発刊に当たり、「何としても3000部発行する」と出版社と掛け合い、学生・院生が買いやすい価格設定としてくださいました。また、『新しい社会科学のためのフォートラン入門』(有斐閣、1986年)等を上梓される一方、学部ではフォートランの特別講義を持たれ、後進のコンピュータに対する「食わず嫌い」を無くそうと努められておられました。そしてこれも指導の一環(?)として、「バロンクラブ」と称する荒木研究室で助手や院生達と飲んだ安酒「ニッカ・ノースランド」の味は忘れません。

我々は、先生の残した足跡を辿り、そしてその先へ進み、学会の発展に寄与したいと思います。荒木先生、有難うございました。

北海学園大学教授
飯野 海彦

XII 追悼 西村春夫先生

2020年9月5日、日本犯罪社会学会名誉会員の西村春夫先生が、89歳で永眠されました。ここに深く哀悼の意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、1931年に東京市小石川区(現在の東京都文京区)に生まれ、1958年に国際基督教大学教養学部社会科学科を卒業されました。法務技官として岐阜少年鑑別所で勤務された後、1959年から長年にわたって科学警察研究所防犯少年部で勤務され、1978年からは防犯少年部補導研究室長、1988年からは防犯少年部長を歴任されました。科学警察研究所に在籍中も早稲田大学や明治大学で非常勤講師として教鞭を執られておりましたが、1990年に国士舘大学法学部教授に就任され、2002年にご定年になられるまで「犯罪学」等を担当されました。その後、常磐大学大学院被害者学研究科教授・研究科長を務められたほか、東洋大学人間科学総合研究所客員研究員として、ご逝去の直前まで精力的に研究活動を続けてこられました。

先生のご研究領域は、犯罪学・刑事政策の基礎理論から、犯罪心理学、犯罪社会学、環境犯罪学、被害者学等まで非常に幅広いですが、最終的にそれらを止揚して関係修復正義・修復的司法を探究されたことが特筆されるべきでしょう。

先生は、上記のご研究領域の各学会においても、非常に大きな役割を果たしてこられました。日本犯罪社会学会をはじめ、日本犯罪心理学会、日本被害者学会、犯罪と非行に関する全国協議会等では、設立発起人や設立準備委員を務められ、また、長年にわたり理事も務められました。近年は、2000年に設立されたR J研究会で共同代表を、さらに、2005年に開始されたR J全国交流会で共同呼びかけ人を務められ、わが国の関係修復正義・修復的司法学の発展に多大な貢献をなされるとともに、この分野における若手育成にも力を注いでこられました。

私自身も1999年度に明治大学大学院博士前期課程で先生の「犯罪心理学研究」を受講した後、先生のお導きにより、R J研究会、東京犯罪社会学研究会、日本被害者学会、そして、この日本犯罪社会学会に入会いたしました。また、先生のお人柄や研究に対するご姿勢を通じて、型にはまらない多角的なものの考え方や、学問における徹底的な“こだわり”の大切さを学ばせていただきました。

先生のご研究やご功績に改めて敬意を表するとともに、先生から賜った学恩に心から感謝申し上げます。どうか安らかにやすみください。

明治大学教授
黒澤 睦

VIII 追悼 澤登俊雄先生

2020年10月4日の午前8時ちょうどに、本学会第5代目会長の澤登俊雄先生が、肺炎と心筋梗塞を患って90歳の人生を終えられました。ここに哀悼の意を表させていただきます。

新社会防衛論の刑法理論の研究者である澤登先生は、日本刑法学会では鋭い論客として早くから認められていました。刑法理論の研究成果は、1967年刊行の『刑法概論』で公表されています。法務省の少年法改正の動きに反対する研究者として、澤登先生は、少年司法システムの実態を踏まえて、少年法の理論研究を深められました。家裁調査官などの実務家をも誘って、実態調査を行っていますが、その調査結果は『展望少年法—非行少年の発見から処遇まで』（1968年）で公表されました。

私が國學院大學に奉職した1981年には、澤登先生は40歳代の法学部長として、大学の改革に熱心に取り組んでいました。大学行政で忙しいにもかかわらず、充実した研究論文を書き続けており、研究者の鑑とみなされていました。

犯罪社会学会は、所一彦先生の提案で、理事連続4選の禁止規定を設けていました。そのために、1984年の理事改選の際には、創立以来の理事は退任しました。その結果、澤登先生は、理事会において、刑事法学者として初めて会長に互選されたのです。私は、庶務理事として、澤登会長を支えました。

澤登先生は、荒木伸怡、新倉修および私とともに、1982年に國學院大學で少年法研究会を立ち上げました。この研究会では、刑事法学者、行動科学者、実務家が、澤登先生の下で少年法の理論を学びつつ、自由に意見交換したのです。少年法研究者を名乗る者の多くは、一度は、少年法研究会で澤登先生の報告を聞いていたのです。研究会は、梅澤秀監、高内寿夫、八田次郎、私の世話で、今も続いています。澤登先生は、1994年には『少年法入門』を刊行しています。それは、改定を重ねて、2015年には第6版が刊行されています。この本は、少年法研究を志す者の必読書となっています。

澤登先生は、キリスト教信者の奥様を、25年ほど前に亡くしておられます。その後は、奥様の手引きで、川崎市の日本キリスト教団生田教会での礼拝に参加されておられました。そこで、告別式は、2020年10月8日（木）午後12時半から生田教会で挙行されました。コロナ禍の中でしたので、澤登先生と親しかった少数の参列者のみが、最後のお別れをいたしました。澤登先生の生前の業績を偲びつつ、ご冥福をお祈りしています。

日本犯罪学会元会長
横山 實

XIV アジア犯罪学会第12回大会の開催について

2021年6月18日（金）～6月21日（月）、龍谷大学において「アジア犯罪学会第12回大会（ACS2020）」が開催されます。COVID-19の影響が広範囲に及ぶことを考慮し、基調講演や全体会議などのメインイベントを除き、個人発表（個人論文発表、テーマ別パネルセッション）は原則としてオンラインでの開催です。

現在、大会公式サイトにて大会参加・演題登録の募集を行っています。大会参加費はACS会員20,000円／非会員24,000円です（いずれも早期割引料金。他に学生料金の設定有り）。早期割引料金の適用は2021年4月10日までとなりますので、ぜひお早めにお申し込みください。なお、対面での大会が可能となった場合も追加の参加費は発生しません。

演題募集の詳細などは【公式サイト】<https://acs2020.org/>をご覧ください。

アジア犯罪学会京都大会国内学術委員会 副委員長 浜井浩一

XV 各部・委員会報告

1 研究委員会

第48回大会は2021年10月16日（土）から17日（日）に、龍谷大学深草キャンパス（京都府京都市伏見区）で開催されます。詳細が決まりましたら、ニューズレター及び学会ウェブサイトでお知らせします。なお本大会では、試行的に託児サービスを導入することを検討しています。詳細は、次号のニューズレター及び学会ウェブサイトでお知らせします。

2 編集委員会

『犯罪社会学研究』45号が発行されました。皆様のご協力に感謝いたします。

46号の自由論文・研究ノートの記事締切りは**2021年3月31日消印有効**です。HPおよび犯罪社会学研究に記載されている投稿規程に従って、下記住所宛にご送付ください。なお、投稿締切りに関して、特別な事情のある方は、必ず事前に編集委員会までご相談下さい。また、投稿は常時受け付けております。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。本誌が犯罪社会学の自由な学術フォーラムとなることを期待しています。

<自由論文・研究ノートの投稿先>

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10 八ッ橋ビル 7階 現代人文社気付
日本犯罪学会編集委員会

- * 投稿にあたっては、投稿時に日本犯罪社会学会の会員である必要があります。投稿者は（共著論文の場合は全員について）、遅くとも投稿締切日までに学会事務局に入会申込書を送達していただかなければなりません（同日必着）。この要件を満たさない場合は、論文を受理いたしません。現在非会員で、今後投稿を予定されている方はご注意ください。
- * 編集委員会では、自由投稿論文の英文校閲を行っておりません。そのため、自由投稿論文の英文要旨については、投稿時点で筆者の責任においてしかるべき方法で英文校閲をおこなっていることを投稿の要件といたします。なお、査読過程で英文要旨の修正を求めていますので、あらかじめご了承ください。
- * 海外から投稿の場合、2021年3月31日（水）までに到着するようご調整ください。
- * 研究ノートでの審査をご希望の場合は、論文の表紙か別紙に明記していただくか、編集委員会に事前にご連絡ください。

学会誌編集業務に関するご意見・ご質問につきましては、下記までお寄せください。

<編集委員会事務局>

hanshaedit17@gmail.com

3 渉外広報委員会

(1) 若手研究者海外派遣補助事業について

アジア犯罪学会（インド）・ヨーロッパ犯罪学会・アメリカ犯罪学会で研究報告を行う若手研究者を対象として、渡航費用の一部補助いたします。補助費用の上限は10万円、募集人数は2名程度、応募締切は2021年3月末日となっております。詳細については学会ホームページをご参照の上、奮ってご応募ください。

(2) 研究会助成について

渉外広報委員会では、犯罪社会学に関する研究会に対し、助成を行っております。年度ごとに2件、1件あたりの助成金は40,000円です。

詳しくは学会ホームページをご参照の上、奮ってご応募ください。

4 本部事務局会計部

会費納入のお願い

まだ2020年度の会費をお支払い頂いていない方は、郵便振込にて会費を納入されるようお願い申し上げます。金額、口座番号および口座名は下記の通りです。

また、領収書をご希望の方は払込票の通信欄にその旨を記入して下さい。

通常会員 8,000 円

但し、院生会員 6,000 円（大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない会員）

国外会員 7,000 円（国外に在住し、かつ国内に連絡先を有しない会員）

郵便振替口座 00950-2-148284

加入者名 日本犯罪社会学会

会費を3年未納となりますと年度末で退会扱いとなります。滞納されていて会員の資格についてご確認なされたい方、また退会をお考えの方は、その旨を事務局まで御一報下さい。

なお、銀行振込や小切手での会費の支払いは受け付けておりませんのでご注意下さい。

5 本部事務局庶務部

(1) 献本 (2020年7月10日～2021年1月6日現在)

下記の通り献本がありました。ご報告少々、お礼申し上げます。

- ・『DRI 調査研究レポート 2019-04 令和元年度研究論文・報告集』阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
- ・『人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査 (第1回) 報告書』人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会
- ・河野 荘子・岡本 英生『コンパクト司法・犯罪心理学—初歩から卒論・修論作成のヒントまで—』北大路書房
- ・『令和2年版 犯罪白書—薬物犯罪—』法務総合研究所

・・・・・・・・・・・・・・・・・・以上4冊

(2) 会員数 (2021年1月6日現在)

一般会員 456名、名誉会員 10名、終身会員 2名、特別会員 2団体、合計 470名

※個人情報保護のため、ニューズレターの記載は人数のみとします。会員各位には、年間1回、会員動向の詳細版を郵送いたします。

お願い

転勤等で所属や連絡先を変更された場合は、学会事務局まで速やかにご連絡下さい。事務局では、会員の皆様からのご意見、ご要望、インフォメーションなど随時承っております。

日本犯罪社会学会 事務局
〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F
TEL : 06-6618-4324 (月～金 10:00-16:00)
E-mail : hansha@daishodai.ac.jp

*お問い合わせ・ご連絡は、なるべくメールでお願いいたします。

付 会計資料

日本犯罪社会学会2019年度一般会計決算

収 入 費 目	内 訳	2019年度決算	2019年度補正予算	2019年度予算	
収 入	学 会 費	通常会員:461名中421件(内一般397件、院生24件) 91.3%、3,305,722円 (特別会員) 日工組社会安全研究財団:200,000円 龍谷大学矯正・保護総合センター:50,000円	3,555,722	3,504,400	3,555,700
	寄 付 金		0	0	0
	機 関 誌 売 上 代	機関誌44号(8冊)	27,280	60,000	60,000
	広 告	学文社、現代人文社、成文堂、日本評論社:各15,000円 日工組社会安全研究財団:20,000円	80,000	80,000	60,000
	預 貯 金 利 息	ゆうちょ:26円、銀行口座:2円	28	100	100
	小 計		3,663,030	3,644,500	3,675,800
前 年 度 繰 越 金		5,141,346	5,141,346	5,021,886	
合 計		8,804,376	8,785,846	8,697,686	

支 出 費 目	内 訳	2019年度決算	2019年度補正予算	2019年度予算	
支 出	印 刷 費	ニュース・会合通知・資料等印刷、コピー費	35,420	54,500	80,500
	通 信 ・ 交 通 費	ニュース・機関誌等郵送料、交通費、連絡費	1,702,296	1,575,000	1,514,000
	会 議 ・ 会 合 費	理事会・各委員会・事務各種作業打ち合わせ	48,862	60,000	60,000
	備 品 ・ 消 耗 品 費	事務用備品、封筒等消耗品	146,089	113,000	33,000
	人 件 費	学会事務、ニュース・機関誌発送アルバイト代等	342,753	340,000	350,000
	謝 金	大阪商業大学事務局への謝礼	0	10,000	10,000
	大会準備関係費	プログラムの印刷発送、大会準備に要する費用	314,250	345,000	385,000
	大会報告要旨集	大会報告要旨集の印刷	0	0	0
	大会補助費	大会開催校への大会運営補助金	100,000	100,000	100,000
	機関誌買上費	機関誌44号作成経費、抜き刷り印刷費	1,168,090	1,200,000	1,200,000
	選挙関係積立費	理事選挙費用、名簿作成のための積立金	131,000	131,000	131,000
	そ の 他	労災保険料	1,253	1,000	1,000
	小 計		3,990,013	3,929,500	3,864,500
次 年 度 繰 越 金		4,814,363	4,856,346	4,833,186	
合 計		8,804,376	8,785,846	8,697,686	

以上の通り、一般会計に関してご報告致します。

会計理事

会計理事

2020年10月3日

山本 功

小長井 資興

監査の結果、一般会計収支決算に誤りのないことを認めます。

監事

監事

2020年10月3日

前田 忠弘

松宮 孝明



日本犯罪社会学会2019年度選挙関係特別会計決算

収入費目	内訳	2019年度決算	2019年度予算
選挙関係積立費	2018年度残高	383,156	383,156
	2019年度積立金	131,000	131,000
預貯金利息		3	2
合計		514,159	514,158

支出費目	内訳	2019年度決算	2019年度予算
選挙関係費		0	0
積立金繰越金		514,159	514,158
合計		514,159	514,158

日本犯罪社会学会2019年度奨励賞基金特別会計決算

収入費目	内訳	収入額
寄付	なし	0
前年度繰越金	2018年度寄付金残高	523,926
預貯金利息		4
収入合計		523,930

支出費目	内訳	支出額
賞金	副賞	0
通信・交通費	奨励賞送付料金	0
備品・消耗品費	祝儀袋代・賞状・賞状筒代 (送料・代引き手数料込み)	0
支出小計		0
次年度繰越金		523,930
支出合計		523,930

日本犯罪社会学会2019年度研究基金特別会計決算

収入費目	内訳	収入額
寄付		0
前年度繰越金		1,507,767
犯罪学セミナー運営費返金		100,000
預貯金利息		12
収入合計		1,607,779

支出費目	内訳	支出額
研究会補助費		0
若手研究者海外派遣補助費		100,000
犯罪学セミナー運営費		100,000
通信・交通費		972
次年度繰越金		1,406,807
支出合計		1,607,779

以上の通り、特別会計に関してご報告致します。

会計理事

会計理事

2020年10月3日

山本 功



小長井 賢與



監査の結果、特別会計収支決算に誤りのないことを認めます。

監事

監事

2020年10月3日

前田 忠弘



松宮 孝明



日本犯罪社会学会2020年度一般会計補正予算・2021年度予算

収 入 費 目	内 訳	2021 年 度 予 算	2020 年 度 補 正 予 算	2020 年 度 予 算	
収 入	学 会 費	(通常会員) 21年予算:456名 90% 3,283,200円 20年補正:院生会員免除のため 3,067,200円	3,533,200	¥3,317,200	3,504,400
		(特別会員) 日工組社会安全研究財団200,000円 龍谷大学矯正・保護総合センター 50,000円			
	寄 付 金		0	0	0
	機 関 誌 売 上 代	機関誌売上	30000	¥30,000	60,000
	広 告	出版社等広告	120,000	¥120,000	80,000
	預 貯 金 利 息		100	100	100
	小 計		3,683,300	¥3,467,300	3,644,500
前 年 度 繰 越 金		5,012,163	¥4,814,363	4,856,346	
合 計		8,695,463	¥8,281,663	8,500,846	

支 出 費 目	内 訳	2021 年 度 予 算	2020 年 度 補 正 予 算	2020 年 度 予 算	
支 出	印 刷 費	会合通知・資料等印刷、コピー費	54,000	¥54,000	54,500
	通 信 ・ 交 通 費	機関誌等郵送料、交通費、連絡費	1,440,000	¥937,500	1,554,000
	会 議 ・ 会 合 費	理事会・各委員会・事務各種作業打ち合わせ、部内研究会	60,000	60,000	60,000
	備 品 ・ 消 耗 品 費	事務用備品等消耗品購入	35,000	¥55,000	33,000
	人 件 費	学会本部事務、機関誌発送アルバイト代等	340,000	¥440,000	340,000
	謝 金		10,000	10,000	10,000
	大 会 準 備 関 係 費	プログラムの印刷発送、大会準備に要する費用	406,000	¥376,000	365,000
	大 会 報 告 要 旨 集	大会報告要旨集の印刷	0	0	0
	大 会 補 助 費	大会開催校への大会運営補助	100,000	¥0	100,000
	機 関 誌 買 上 費	機関誌作成経費、抜き刷り印刷費	1,200,000	1,200,000	1,200,000
	選 挙 関 係 積 立 費	理事選挙費用、名簿作成のための積立金	131,000	131,000	131,000
	そ の 他	労災保険、GEAHSS会費、慶弔費等	6,000	6,000	6,000
	小 計		3,782,000	¥3,269,500	3,853,500
	予 備 費		4,913,463	¥5,012,163	4,647,346
合 計		8,695,463	¥8,281,663	8,500,846	

¥マークを付した箇所が補正予算による変更箇所

日本犯罪社会学会2021年度選挙関係特別会計予算

収入費目	2021年度予算 内訳	収入額	2020年度予算 内訳	収入額	2019年度決算 内訳	収入額
選挙関係積立金	2020年度積立金残高	245,161	2019年度積立金残高	514,159	2018年度積立金残高	383,156
	2021年度積立金	131,000	2020年度積立金	131,000	2019年度積立金	131,000
預貯金利息	預貯金利息	2	預貯金利息	2	預貯金利息	3
合計	合計	376,163	合計	645,161	合計	514,159

支出費目	2021年度予算 内訳	支出額	2020年度予算 内訳	支出額	2019年度決算 内訳	支出額
選挙関係費	選挙名簿作成、会員名簿作成	0	選挙名簿作成、会員名簿作成	400,000	選挙名簿作成、会員名簿作成	0
繰越金	2022年度繰越金	376,163	2021年度繰越金	245,161	2020年度繰越金	514,159
合計	合計	376,163	合計	645,161	合計	514,159

日本犯罪社会学会2021年度奨励賞基金特別会計予算

収入費目	内訳	収入額
繰越金	2020年度寄付金残高	409,930
預貯金利息		2
収入合計		409,932

支出費目	内訳	支出額
通信交通費	著作物郵送代	4,000
備品消耗品費	祝儀袋、賞状代	10,000
賞金	¥100,000×1人	100,000
次年度繰越金		309,932
支出合計		409,932

日本犯罪社会学会2021年度研究基金特別会計予算

収入費目	内訳	収入額
繰越金	2020年度繰越金	1,025,807
預貯金利息		4
収入合計		1,025,811

支出費目	内訳	支出額
研究会補助費	40,000円×2件	80,000
通信交通費	振込手数料等	1,000
若手研究者海外派遣補助事業	100,000円×2件	200,000
犯罪学セミナー運営費	100,000円	100,000
次年度繰越金		644,811
支出合計		1,025,811